□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名　グループホーム　小鳥の森の家　※

日付　平成17年3月31日

特定非営利活動法人

評価機関名　高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会

LIFE　SUPPPORT推進グループ

評価調査員　在宅介護経験8年

評価調査員　在宅介護経験8年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

代表がグループホームを立ち上げた原点は「私の家に父を母を引き取る。叔父も叔母も、友達のお父さんお母さんも引き取る。私一人では看れないから友達に手伝って貰う」ということ。私自身が結婚する時「夫の親も私の親も一緒に暮らそう」と決意し、三十数年を経た今、「このホームの目指しているものは私と原点が同じ。それにしてもこのような実績を上げているのは凄い！」と唸ってしまう。
地元の「困った人を放っておけない」素人が「介護力より人間力」を打ち出し、この理念に賛同した仲間が、次世代の手本となるような老後の過し方を目指している。

Ⅱ生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

ホームの前は道路だが、あまり車の往き来もなく裏は山、少し歩くと広い公園と、自然に囲まれた中での暮らしは、心が落ち着く。かと言っても廊下の向こうはデイサービスの人が、また目の前は中学校で人寂しさはない。家族も含めて色々な人の訪問も多い。穏やかな生活の中にも適当な刺激もあって良いなあと思う。
建物の中にも思いやりや優しさの発見が色々ある。使い慣れた物の持込は勿論、加湿器や風呂の残り湯を使ってのエアコンによる乾燥対策、リビングの足元に置かれた足置きまでの細かい配慮など。

Ⅲケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

「世代から世代への想いを形にしたい。戦後の荒廃の中から働いて働いて今日の日本を築いてくれた世代の人に、有難うという想いを込めて、自分がそうでありたいと願う暮らしを構築してみたい」と熱く語り、その想いが実現しているホームの日常に感激した。 今では珍しい大家族で暮らしてきた私は代表者の「一人ひとりの来し方までも、切ないまでにいとおしく、抱きしめてあげたい」「擬似家族かも知れないけれど、介護するのじゃなくて一緒に暮らそう」と言う姿勢、そして利用者も他の職員も同じ歩みで過している様子に、かっての自分の姿を重ね合わせてしまった。
今は現実には死語になりつつある「親孝行」。言葉だけではなく強い思いを打ち出し、思いやりのあるのどかな時間を共有している。そして「静」と共に、日常の暮しの中で家事やレクリエーション、リハビリ体操などで積極的に自立度アップにつながるケアをしていてメリハリがあるのが良い。
代表者の身内が作り収穫する野菜等をふんだんに使っている食事は、種類も豊富で高齢者にはうれしい内容だ。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

他のグループホームにない「小鳥の森の家」の色。世界に一つのこのホームの願い「自分の人生を肯定できる幸せ色のメガネを」の思いはそのままで、、
①認知症の人、一人ひとりが、今以上に自分のことや胸の内を引き出せるように、職員以外のボランティア、家族の有志、デイサービスの人達に応援して貰ってはどうでしょうか。話し相手だけでなく、共同作業やレクリエーションに加わって貰うのも楽しい良い刺激になると思います。
②脳の活性化への働きかけは今注目されているし、有効と言われています。認知症の人への配慮や、「自分は呆けの人達と一緒にされたくない」と思っている利用者への配慮もしながら続けて下さい。
③せっかく絵もうまい職員がいるのだから、今日のような楽しい日常を「たより」として家族等に送って見られてはどうでしょうか。

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

毎朝行っている体操や歌、午後の余暇活動として行っている編物や折り紙、おどりやゲーム等、職員は皆んなで工夫して楽しみと同時に心身の機能回復に向けた働きかけをしている。職員の個性やそれぞれの力も活用されており、良い雰囲気をかもし出している。「脳への刺激」に対する配慮も伺われ、一人ひとりの力を尊重し今の状態を維持、いや向上させようという努力が多く見られた。現実に入居時と比較して心身共に向上している利用者も何人か見られる。
ヘルパー研修で訪れた施設には「心が無い」と幻滅した代表者が、熱い思いを手探りで始めたホーム。そしてこの思いを共有している職員やボランティアの人達だからこそ、利用者一人ひとりにじっくり向き合っている。フラダンス慰問に来る人に「見せるより踊れるようにして欲しい」と頼んだと言う事からも、職員の姿勢が伝わってくる。
「一人ひとりの尊厳を大切にし、プライドを傷つけないよう皆んなの暮らしも守る」と言う努力と工夫が、あちこちに沢山見受けられた。「さまざまな人生の終わりの時を幸せに」と願うこのホームの想いは、こういった日常的なささいな努力と工夫の上に成り立っている。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供		○
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元		○

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

プライドや自己顕示欲がとても強く、他の利用者と強調して暮らせない一人の利用者は、班長さんと職員から呼ばれ、畳コーナーを自分の居場所と決めて、最近は少し落ち着いている日もあると言う。また入居間もない利用者は、深夜にも大声を出す等、不穏な状況がまだ続いているようだ。しかし、こういった困難な状態に対しても職員は色々な工夫や仕掛けを出し合い、理念に添った良いケアが出来ているので「待つこと」がポイントになるのではないか。
職員が利用者を「いとおしい、愛らしい、抱きしめたい」と思う。この思いの中から日々の介護で行き詰まった時も工夫が生まれ、アイデアが出てきている。さらに新鮮な空気を入れる為にチャンスを捉えて、他のグループホームを訪問したり交流して見ると、もっと良くなるのではないかと思う。
「働く女性は 1が子供、2が仕事、3が主人。子供を連れてここで働いてもいいのです。子供の病気の時は休んだら良い」と職員にも優しい。このような積み重ねが一歩一歩このグループホームの質を向上させていくのだろう。